2026年（令和8年）
第94号
（2月4日）

平安だより

HEIAN letter

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　澤村悦玄
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

令和８年 御親教　～“斉家”と“伝統を継承”～

令和８年の御親教が１月７日に教会法座席で行なわれ、多くの会員が参拝しました。
インターネットによる本部の式典配信後、東教会長はお言葉の中で庭野会長のご法話にふれ「感謝の出来る人間になっていくことが“心田を耕す”ことであり、家を整え家族全員が信仰者になっていくことが“斉家”であり、これらを通して伝統を継承し、自分たちの生まれた国を愛していく中で同じ心を持った子供たちを育てていくことになります」とまとめました。また、１月７日は七草粥を食べることは良く知られていますが、“七草爪”と言って今年に入って初めて爪を切るのがこの日だとされ、元旦から１月６日まではご先祖さまが自宅に戻っておられるため、その間に爪を切るのはご先祖との縁を切ってしまうという縁担ぎからきていることや、しめ縄は塩をふって清めて捨てること、白馬を見て邪気を払うことなど日本古来の伝統・習わしを言い伝え、守っていきましょうと締めくくりました。

法座所開き　～亀岡・宇治支部～

京都教会の包括地域にある亀岡・宇治支部の両法座所開きが１月８日に行なわれ、各支部の地元の会員が参集し新年の顔合わせを行ないました。

亀岡法座所では元支部長を務めていた現教務部長が駆け付けたことで皆が大喜び。大歓喜のまま一体感を感じられる読経供養で始まり、その後の法座では辛い思いを持っておられる会員も、教務部長の言葉に救われていく一歩を出されたように思う場面もありました。教務部長の手元には 92 歳のお婆ちゃんが手作りされた、今年午年の白馬の飾りものが贈られ、喜びの輪が広がりました。
参拝者 21 名のうち、ある会員が鏡餅を切り小豆を炊いて美味しいおぜんざいを振る舞われたことで、皆で会話を楽しみました。参拝者は改めて法座所の有り難さを実感したようでした。

宇治法座所では総務部長と渉外部長も参拝し、読経供養のあとは東教会長のビデオレターを拝見しました。参拝者 19 名からは「はからいを感じられて今日来て良かった」「今年は自分から進んで参拝していきたい」「目の前の人を大事に、大切にしていくことを教えて頂きながら、平和な心でいたいのに、平和な心でいられない自分がいることに、他人さんとでは、お互い我慢できるけど、家族ほど難しいことにも気づかせて頂き、だから修行させて頂くんですよね」「会長先生のお話は、宇宙のお話しで難しいですが、部長さん達のお話しで、共感でき安心しました」「今日の法座所開きで、これから手取りやふれ合いが大事。自分が学んでいき、仏の智慧を頂き、その人の行動だけで判断するのでは無く、奥が見られる私になり、会員さんと触れ合っていきたい」「主任さんが来られなかったから、私が今日の悦び感じたことを主任さんや法座の方にお伝えさせて頂きます」などの喜びの声がありました。

京都教会ビデオレター２月号 配信中　～東教会長発～

ビデオレター２月号が京都教会のホームページで公開されています。パスワードは各支部長にご確認下さい。
https://rkk-kyoto.jp/archive1/20260201

左記の QR コードをスマートフォンで読んで、ご覧頂くことも出来ます。
地区単位、各家庭においても視聴し、
１ヶ月の修行目標とさせて頂きましょう。

令和８年、私たちは「仏さまと出会い　サンガと語り合って　心田を耕そう」を実践して参ります。

京都教会のホームページもご覧下さい。https://rkk-kyoto.jp/（右のＱＲコードからご覧頂けます）

令和８年京都市はたちを祝う記念式典　～運営に携わる（青年部）～

令和８年京都市はたちを祝う記念式典（主催：京都市・京都市教育委員会・ユース 21 京都）が１月 12 日、京都市勧業館みやこめっせで行なわれ、新二十歳 5,721 人が２回に分かれて参加しました。

京都教会青年部からもユース 21 京都の加盟団体として、館外誘導の役割を担いました。式典が始まる時間が近づくにつれ、みやこめっせ前の歩道は新二十歳であふれかえり、「おめでとうございます」の声かけと共に入場口への案内を行ないました。またユース 21 京都のブースでは、昨年まで「姓名鑑定」と称していたコーナーが「はたちへの応援コーナー」と改められ、布教支援室の会員を中心に、時折笑い声が聞かれるなど和やかな雰囲気の中、二十歳のこれからの運勢を見ました。二十歳の皆さんの感想としては「すごく良かった」61%、「良かった」33%で全体の９割強を占め、「どちらでもない」は 6%、「良くなかった」「すごく良くなかった」の回答はなく、ほとんどの方が自身の未来に明るい展望を抱くことが出来たようでした。

ハタチを祝う会　～第 60 回を数え、第１回成人者も参加～

京都教会青年部は１月 18 日、ハタチを祝う会の企画・運営を行ない、多くの会員が新二十歳を祝うために参加しました。

今回で第 60 回を数え、祝ってもらった成人者が翌年に実行委員として祝う立場になるという、京都教会の伝統が脈々と受け継がれてきました。今年の実行委員はその伝統を継承しつつ、テーマを「一華開五葉（いっかごようをひらく）～あなたのはなまるストーリー～」と設定。１部は法座席での式典、２部は体育室でのパーティーを行ないました。

１部式典の冒頭、実行委員長はテーマ設定の思いを「今まで歩んできた道も正解で、これから歩む道も正解になるように」と述べました。東教会長導師のもと式衆は青年部員で構成し、読経供養の中で導師が新二十歳の名前を読み上げ、祈願しました。

読経供養後、新二十歳は「基本情報資格者の資格取得に頑張りたい」「中学か高校の先生になりたい」など夢を語り、今年 10 歳になる“２分の１成人者”は「幼稚園の先生になりたい」「人を助けられる人になりたい」と述べると会場からは温かい拍手が送られました。また、新二十歳が 10 歳の時に“10 年後の自分へ”と書いた“ドリームカプセル”が本部から返却され、本人に渡されるサプライズもありました。

東教会長はお言葉の中で、テーマである“一華開五葉”にふれ、「これは達磨大師が作られた言葉で、努力すれば必ず花が開くという意味」であるとし、自身の二十歳の頃に大病をし、佼成会のお陰で治癒したことを述懐しました。また、新二十歳の姓名鑑定を行ない、誰の名前にも“志”が込められているとしました。“志”は“士”を“心”が支えるようになっているとしながら、“心”とは「多くの人たちへの感謝。外に出てみて多くの人の支えになろうとする気持ちが大切」とし「ろうそくの芯はご先祖さまから頂き、火をつけるのは本人次第、その火を皆さんで見守って頂きたい」と神仏のご加護と本人の努力とまわりの支援の大切さを述べました。

今回の成人式が 60 回目を迎えることから、60 年前の成人者２名が登場し、当時の様子を「お祝いしてもらったので、今度は私たちがお祝いさせてもらおう」と５人の実行委員で始めたことがきっかけで京都教会の伝統になったと述懐しました。“自分たちは仏さまに選ばれた成人者なんだと教えてもらった”と懐かしみ、「皆さんの４倍の人生を生きてきました。今日は自分に“はなまる”をつけたいと思います」と今回のテーマになぞらえて締めくくりました。

２部パーティーでは趣向を凝らしたレクリエーションで老若男女が楽しみ、会場が１つになったようでした。会場には第１回から 59 回までの成人式で集められた記念写真が“プレイバック成人式”として展示され、皆で懐かしむ声も聞かれました。また、手紙披露の時間では親から子へ、子から親へ、20 年間の感謝の言葉がおくられ、涙するシーンもあり、楽しくも温かみのあるパーティーになりました。

最後の実行委員のあいさつでは「実行委員長をやるにあたって、去年、七五三の司会を務めました。皆さん温かく迎えて頂いてありがとうございました」「去年、成人式で祝ってもらってすごく良かったので恩返しで実行委員が出来て良かったです」「今年の成人者は来年実行委員で頑張ってもらいたいです」などの感想がありました。

ハタチを祝う会の写真は右記の QR コードからご覧下さい。